

● 東北の元気、日本の元気を青森から

復興最前線！「より強い、より元気な、より美しい八戸」

第1回 八戸港の復旧・復興 ～都市基盤再建・経済再興（産業）編～

東日本大震災の津波により、八戸港は防波堤を中心に甚大な被害を受け、被害額は約400億円にのぼりました。

なかでも、総延長3,500mの八太郎北防波堤は、約4割にあたる1,400m(102函)のケーソン(コンクリート製の箱)が倒壊するなど、最も大きな被害を受けましたが、早期に八戸港の機能を回復させるため、国や県が急ピッチで本復旧工事を進めてきました。

本復旧工事では、防波堤が容易に倒壊しない「粘り強い構造」となるように新たな技術を導入し、また、ケーソンの中詰め材料に災害ガレキ(土砂やコンクリートがら)を活用するなど、コストの縮減にも配慮しています。

八太郎北防波堤は、3月までに76函すべてのケーソンの据え付けが終了し、夏ごろの本復旧完了を目指しています。

八戸港の復旧・復興が進むことにより、地域の産業・経済が、震災前以上に活性化することが期待されています。

教えて！復興すすむ君



倒壊したケーソンは102函なのに76函だけ据え付けしているのはどうして？

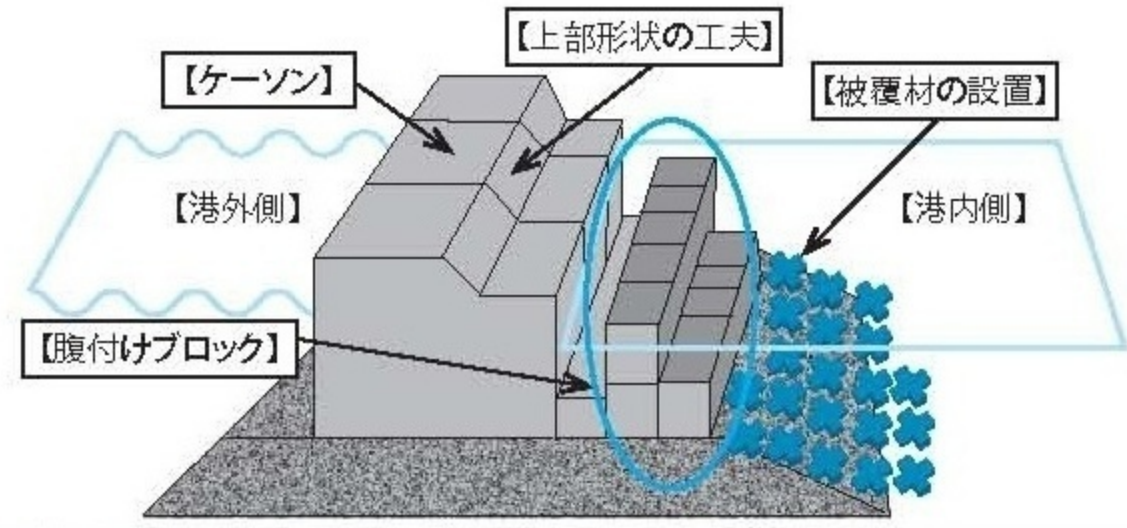
新たに設置したケーソンは、施工の効率性やコスト縮減の観点から、1函あたりの延長(約10～16m)を5m程度長くしたためだよ。



復興すすむ君

固政策推進課 ☎ 43・9260 FAX 47・1485

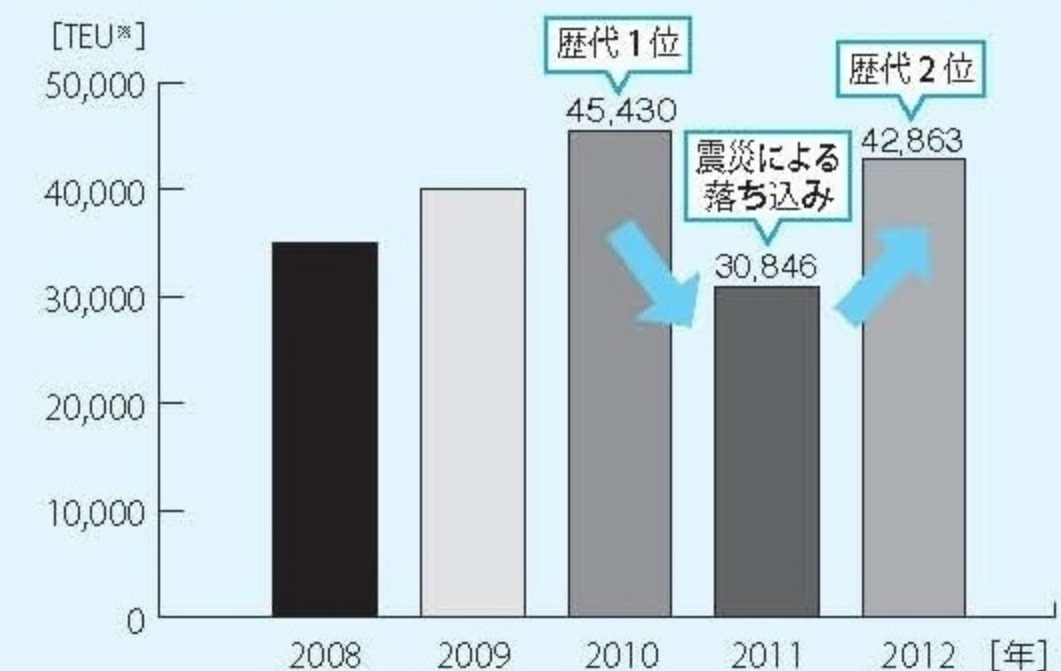
八戸港北防波堤の粘り強い構造への補強イメージ



復興メモ

2012年八戸港コンテナ貨物取扱量歴代2位！

八戸港コンテナ取扱実績



* TEU (twenty-foot equivalent unit) 20フィートコンテナ換算
標準的な大きさのコンテナ1個分相当というおおよその容量を示す単位

● 東北の元気、日本の元気を青森から

復興最前線！「より強い、より元気な、より美しい八戸」

第2回 災害ガレキ処理完了 / 災害公営住宅完成～生活再建編～

東日本大震災の津波で被害を受けたために発生した災害廃棄物の総量は、約15万8千トンでしたが、その処理が3月26日で完了しました。市では災害廃棄物を可能な限りリサイクル処理し、そのリサイクル量は約9万5千トン(災害廃棄物総量の約60%)となりました。主なリサイクル方法は、次のとおりです。

災害廃棄物の種類		リサイクル方法
①可燃物系	可燃ごみ	焼却灰などのセメント原料化・スラグ※化
	木くず	スラグ化・堆肥化など
	そのほか(飼料、でんぷんなど)	堆肥化・スラグ化など
②不燃物系	金属くずなど	金属としての再利用
	コンクリートがら	道路の路盤材
③津波堆積物		最終処分場の覆土材、防波堤の中詰材など

※スラグ: 熔融施設で廃棄物を溶かした時に発生する残渣物。路盤材などに使用

八戸市内には廃棄物を処理できる企業が充実していたため、市内での処理量は災害廃棄物総量の約84%に達しました。

また、岩手・宮城で発生した災害がれきについても、八戸セメント株式会社の協力を得てリサイクル処理を進めていて、三陸沿岸地域の被災自治体の復興を支援しています。

教えて！復興すすむ君



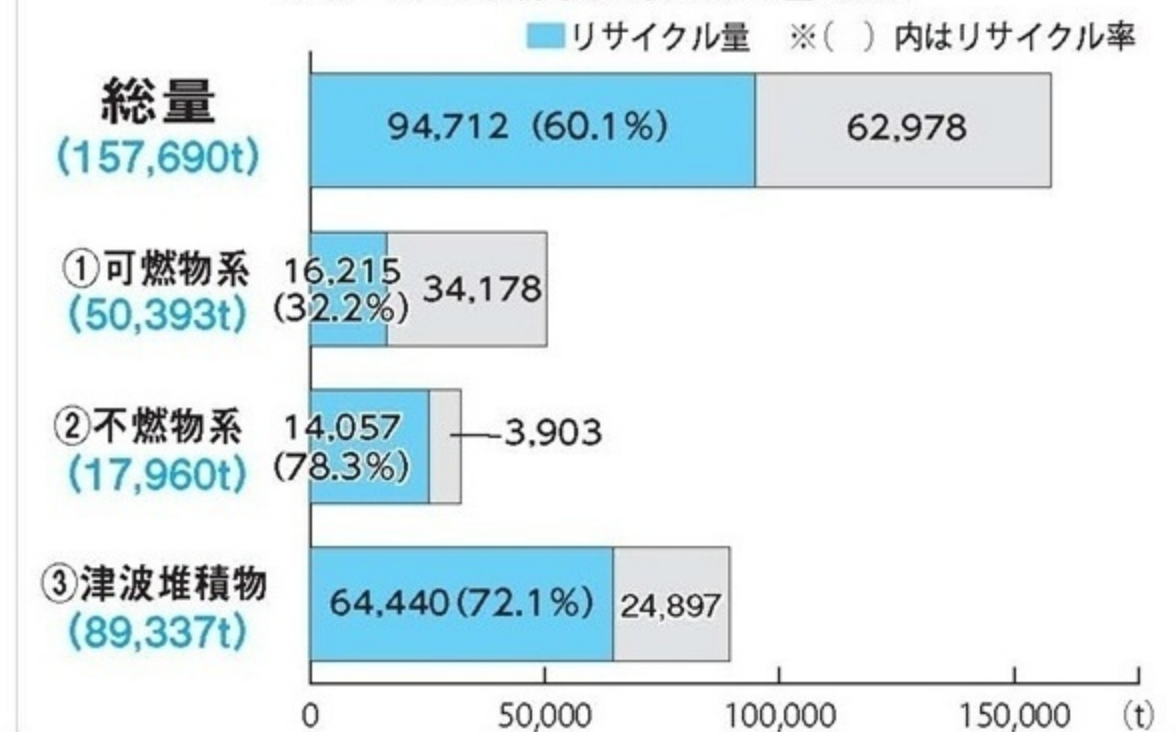
災害廃棄物は、通常のごみの量と比べてどのくらいあったの？

22年度の八戸市の通常のごみ総量は、8万8千トンだから、約2倍もあったんだよ。



復興すすむ君

八戸市の災害廃棄物処理状況



復興メモ

4月1日から災害公営住宅入居開始！

災害公営住宅				
白山台ヒルズ	多賀台	新井田道	白銀いかずち	合計
12戸	26戸	17戸	7戸	62戸

(白銀いかずち団地は5月1日から開始)



白山台ヒルズ

固政策推進課 ☎ 43・9260 FAX 47・1485